

埼玉県高等学校剣道専門部 大会申し合わせ事項

1. 武道館の利用について

- ①深夜・早朝（午前8時以前）の来館を禁止する。
- ②選手・応援の生徒は2階観客玄関を利用する。（それ以外は利用できない）
- ③各学校で靴袋や傘袋等を用意し、必ず袋に入れて管理する。
（そのまま館内に持ち込まない）
- ④ゴミはすべて持ち帰りとし、館内の美化・清掃に心がけお互いに気持ち良く利用する。
- ⑤応援は2階観覧席のみでおこなう。大会役員・引率教員・選手以外は1階に降りない。
- ⑥1F事務室付近には出入りしない。
- ⑦道場以外での練習は禁止する。
- ⑧外へは絶対裸足で出ない。また、2階剣道場以外での準備体操・素振は厳禁とする。
- ⑨武道館のスリッパは役員以外の利用はしない。
- ⑩キャスター付き防具袋は、館内ではキャスターを使用しない。
- ⑪飲食は、2F観覧席・選手ラウンジ・中庭のみとする。また、試合会場内には飲み物を持ち込まない。（中庭の渡りは土足禁止、石畳上は下足使用となる）
- ⑫武道館駐車場は大会役員以外の利用禁止とする。役員以外は水上公園の駐車場を利用。
- ⑬武道館敷地内は、喫煙所以外はすべて禁煙である。
- ⑭武道館利用規則を遵守すること。

2. 応援席、更衣について

- ①2F観覧席や通路に荷物等を置かない。（場所取りの禁止）
また、1校が多数を独占したりしないで、お互いに譲り合う。
- ②男子は2階観覧席で更衣をする。
- ③女子の更衣については剣道場を使用する。
（施設の利用状況によっては他の場所を使用する場合もある）

3. 盗難・忘れ物防止について

- ①更衣後の荷物・貴重品は整理して各校で管理する。
- ②貴重品ロッカーを必ず活用する。
- ③退館する際に忘れ物がないかどうか必ず確認する。
- ④持ち物には必ず記名しておく。

4. 申し込みについて

- ①各種申込書は高体連剣道専門部のホームページ(<http://saitama.koutairenkendo.jp/>)の中にある申込書をダウンロードして使用する。（A4版）
- ②校長印のないものは受け付けない。
- ③人数不足（3・4名）の大会申込書は以下のように書く。
春季大会 3名：中堅・副将・大将 4名：次鋒・中堅・副将・大将
新人大会 3名：1・2・3 4名：1・2・3・4
- ④関東大会・全国大会ともに、人数不足での出場も可能

5. 受付、掲示用オーダー用紙・メンバー用紙、選手交代について

- ①受付は開会式前までに個人戦は個票を、団体戦は掲示用オーダー用紙を封筒に入れて各試合場の補助役員に提出して行う。
- ②個人戦の個票は剣道専門部のHPよりダウンロードして使用する(下図参照)。

個票：A4コピー用紙

※
名
字
(学校名)

(注意)
個票提出の際は
は※印の欄に第
1試合の試合場
及び通し番号を
記入する。

- ③団体戦の掲示用オーダー用紙・メンバー用紙の作成・用途について。
○春季支部大会・関東大会県予選・全国大会県予選は要覧P20【資料1】を参照。
○秋季支部大会・新人戦(全国選抜予選)はP21【資料2】を参照。
- ④選手と補欠の交代は、各試合場の審判主任に申し出る。交代した選手は再度出場できない。秋季地区大会・新人大会はフリーオーダーなので、交代後も再度出場できる。

6. 選手変更・追加登録について

- ①大会申し込み後に、選手・補欠が怪我や急病のためやむなく大会に出場できなくなった場合に限り、選手変更ができる。部員が新規に入部した場合等は、追加登録ができる。
- ②選手変更は所定の選手変更届を提出する。原則として校長印のないものは受け付けない。高体連剣道専門部のホームページ(<http://saitama.koutairenkendo.jp/>)の中にある選手変更届をダウンロードして使用する。(A4版)
- ③選手変更届は大会当日、大会本部(競技部長)に提出する。委員長と競技部長の協議の上、大会本部(競技部長)から各試合場の審判主任に報告する。
- ④選手変更する場合、参加申込時の選手5名補欠3名に対し、新たな選手を入れる場合は、補欠を飛び越して選手と直接変更することはできない。
正選手を交代する場合、まず、補欠選手を正選手と交代し、変更選手を補欠に入れる。また、出場順の変更は認めない。**新人大会はフリーオーダーなので出場順を変更することができる。**変更・追加する選手は申込時の補欠の人数分(最大限3名まで)とする。

7. 棄権連絡について

- ①大会申し込み後に棄権する場合は、必ず剣道専門部委員長に連絡を入れる。
(支部大会においては各支部委員長に連絡をする)
- ②当日やむを得ず棄権する場合は、大会本部(競技部長)に連絡する。
大会本部(競技部長)より各試合場審判主任に報告する。

8. 試合について

- ①竹刀は整備されたものを使用し、安全点検を励行する。また、竹刀は適正なものを使用する。(先革にテープが巻いてあるもの、つばの先に柄革が余っているもの、先が異常に細いものは使用できない。検量に合格していない竹刀や、異物が入っている竹刀を使用した場合は、反則負けになる)
- ②サポーター等の使用は医療上必要と認める場合に限り、見苦しくない範囲で認める。
足底用サポーターは、皮・ゴムを使用しているものは不可、布は許可する
- ③名札(黒または濃紺地に白文字、学校名・氏名)を必ず着用する
※2枚重ねの場合は必ず2・3箇所縫いつける(安全ピンは不可)。なお、手書きの場合

- 合は消えないもので書くこととする。(できていない場合は出場不可)
- ④赤白目印は長さ70cm、幅5cmとする(極端に基準を越えないものは認める)
 - ⑤面紐の長さは、結び目より40cm以内とする(長い場合はその場で切る)
 - ⑥ストップウォッチ類の試合場への持込みを禁止する。
 - ⑦円陣・胴突き・握手・声援・試合場での監督指示は禁止する。
 - ⑧声援が多い場合は、各試合場の審判主任が監督または選手・応援団に注意する。
 - ⑨会場内でのフラッシュ撮影は禁止する。また、1階でのビデオ撮影は危険を伴ったり、試合進行の妨げになるので禁止する。
(iPhone、iPad、スマートフォン等での動画撮影も1階では禁止とする。)
 - ⑩試合進行の変更等は、本部とトランシーバーで連絡をとりあい円滑に行う。

9. 勝敗(団体戦)について

- ①団体戦の勝敗は、まず勝者数で決める。
- ②勝者数が同じ場合は、取得本数で決める。
- ③勝者数と取得本数が同じ場合は、任意の代表者による代表者戦を行う。
- ④代表者戦は4分1本勝負とし、勝敗の決しない場合は勝敗の決するまで延長戦を行う。

10. 人数不足のチームの試合方法について

- ①埼玉県高体連剣道専門部の試合規則として以下のように定める。
団体戦において3名で大会に出場する場合には、中堅・副将・大将に選手を、4名で出場の場合は次鋒・中堅・副将・大将に選手を配し、相手チームの任意の選手と順次対戦する。3名のチームは相手の先鋒・次鋒に2本を与え不戦負けとし、4名のチームは相手の先鋒に2本を与え不戦負けとする。
また、大会申し込み後に選手が怪我や急病のためやむなく大会に出場できなくなり、人数不足となった場合も同様とする。ただし、新人大会以外は出場順を変更することはできない。

- 関東大会・全国大会ともに人数不足のチーム(3・4名)でも出場は可能
- ②追加登録(上限3名まで)する場合は、大会本部(競技部長)に選手変更届を提出する。

11. 顧問(監督・コーチ等)の申し合わせ

- ①顧問(監督・コーチ等)の服装は、背広・ネクタイの着用を原則とする。
(剣道着・袴も可とする)
- ②顧問(引率責任者)は出場校の教諭とし、監督(コーチ)は出場校の教職員または学校長が特に認めた者とする。監督が出場校教諭である場合は、原則として引率者を兼ねる。
また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の2に示された者)も可とする。ただし、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は県高体連会長に事前に届け出ること。
- ③試合場(監督席・次回選手席)に入れる者は、顧問(監督・コーチ等)1名と選手・定められた補欠だけで、他の者の入場は厳禁する
- ④監督席では時計の装着は厳禁する

12. 各大会時の男女の入場規制について

- 男子の大会への女子の応援生徒の入場及び女子の大会への男子の応援生徒の入場は認めない。

13. 各大会時の1階試合会場への入場規制について

- 1階試合会場への入場は、選手・顧問(監督・コーチ)・大会役員・補助役員のみとし、IDカードの使用を義務づけることとする。(競技本部で受付、配布・試合終了後返却)
- 注)顧問(引率責任者)、監督(コーチ)は出場校の教職員または学校長が特に認めた者であり、それ以外は入場を厳禁する。

14. 竹刀の検量について

竹刀の検量で基準に満たなかった竹刀は試合で使用できない。さらに、検量を行っていない竹刀や、不正な竹刀を試合で使用した場合は負けとし、相手に2本を与え、既得本数および既得権を認めない。更に以後の試合に出場できない。

ただし、団体トーナメント戦における補欠の出場は別に定めのない限り認める。

注) 以下のような竹刀は検量に合格できない。

- ①記名が確認できないほど柄革が汚れているものや古いもの
- ②竹刀をテープで補修したものや、竹刀の合わせ等の不備なもの
- ③先革がすり減ったものや、破れて先芯が見えているもの
- ④弦が緩んでいるもの
- ⑤中結の位置が、剣先から全長の1/4以外のもの
- ⑥竹刀に記名（氏名・学校名等）のないもの
- ⑦以前の検量シールを貼ってあるもの

※検量は一人3本までとする。

15. 竹刀の基準について（一刀の場合）

	性別	高校生（相当年齢の者も含む）
長さ	男女共通	117センチメートル以下
重さ	男性	480グラム以上
	女性	420グラム以上
先皮先端部 太さ	男性	26ミリメートル以上
	女性	25ミリメートル以上
<u>ちくとう</u> 最少直径	<u>男性</u>	<u>21ミリメートル以上</u>
	<u>女性</u>	<u>20ミリメートル以上</u>

16. 部員不足による合同チームについて

- ①合同チームによる大会参加は全国大会県予選・県新人大会・各支部新人大会の出場を認める。次回参加につながるシード権・出場権は与えない。
- ②合同チームの編成は2名以下の登録部員数の学校である。その際は3校以下とする。
（最大登録選手6名）怪我や初心者等の理由で合同チームを編成することはできない。
- ③合同チームで試合に出場できる選手は3名とし、「中堅・副将・大将」とする。
- ④男女団体それぞれにおいて、別々の学校（原則として同一支部）と編成することができる。
- ⑤合同チームの名称は、編成する学校の連名とする。
- ⑥合同チームで出場する場合の名札は自校名のものとする。
- ⑦合同チームの監督席には代表顧問1名とする。
- ⑧全国大会県予選については、関東大会県予選に持参するか、郵送によって競技部長に合同チーム編成申請書（様式1-1）を学校毎に作成し、提出する。
- ⑨県新人大会については、秋季支部新人大会参加申込時に各支部委員長に合同チーム編成申請書（様式1-2）を学校毎に作成し、提出する。
- ⑩剣道専門部競技部会で協議後、常任委員会で承認を得る。
参加が認められた場合は合同チーム大会申込書（HPよりダウンロードする）を全国大会県予選代表者会議または県新人大会代表者会議に提出する。
- ⑪各支部新人大会については県新人大会と②～⑦のとおりとする。
支部委員長に様式1-2・合同チーム大会申込書を提出し、各支部で協議し、承認を得て参加を認める。必ず支部委員長は競技部長に報告する。

《各試合場用具確認一覧表》

第 試合場

項目	用具	基本数	現在の個数を記入する
旗	審判旗	6組(赤白)	
	タイマー旗	1本(黄旗)	
	監督旗	2本(赤旗)	
標示用具関係	メ	14	
	コ	10	
	ド	8	
	ツ	3	
	反	3	
	○	9	
	▲	10	
	×	10	
	延長	9	
	一本勝	10	
	代表者戦用(白紙)	8	
	選手変更用(白紙)	8	
	審判主任	1枚	
	次回審判員席	1枚	
	時計係	1枚	
記録係	1枚		
試合場標示	1枚		
備品類	トランシーバー	1	
	ストップウォッチ	2	
	ホイッスル	1	
	ハサミ	1	
	面紐計測棒	1	
	黒棒マグネット	18	
	オーダー用紙用マグネット	17	
	黒ビニールテープ	1	
	セロテープ	1	
	電池	1	
	マジック	黒・赤(各1)	